

# 令和3年度 租税教育実践発表会

石巻地区租税教育推進協議会



# 次 第

1 開 会

2 開 会 挨 拶 石巻地区租税教育推進協議会会長  
(女川町教育委員会教育長)

3 実践者紹介 (発表者)

石巻市立山下小学校	教諭	佐々木	潤
石巻市立湊中学校	講師	澁谷直	樹
女川町立女川中学校	教諭	沖田	淳

(資料提出者)

石巻市立鹿又小学校	教諭	松川幸浩
石巻市立鮎川小学校	教諭	坂本隆一
石巻市立河南東中学校	教諭	中谷友祐

4 実 践 発 表

5 質 疑

6 閉 会 挨 拶 石巻地区租税教育推進協議会副会長  
(石巻税務署長)

7 閉 会



# 実践発表会資料

石巻市立山下小学校

教諭 佐々木 潤 . . . . . 1

石巻市立湊中学校

講師 澁谷 直樹 . . . . . 7

女川町立女川中学校

教諭 沖田 淳 . . . . . 14

石巻市立鹿又小学校

教諭 松川 幸浩 . . . . . 24

石巻市立鮎川小学校

教諭 坂本 隆一 . . . . . 30

石巻市立河南東中学校

教諭 中谷 友祐 . . . . . 36



1 はじめに

税金と聞くと、大人にとっては重たいもの、子供にとってはよく分からないもの、といったところが本音ではないだろうか。しかし日本のように国営の産業がない国では、税金がなかったら公共サービスが受けられず貧富の格差が生活により反映されることになるであろう。また、石巻市の場合は東日本大震災後の復興に税金は欠かせないものとなっており、今後の市の活性化に向けて重要な役割を担っていると言える。税金は私たちの生活を支える重要なものとなっているのである。そうしたことを踏まえて、税金の重要性に気付かせる学習を行うことが、これからの社会を担う子供たちに必要であると考え、今回の実践を構成した。

2 指導にあたって

社会科学習指導要領解説 P103 には、「国会などの議会政治や選挙の意味、国会と内閣と裁判所の三権相互の関連、裁判員制度や租税の役割などについて扱うこと。」と明記されている。学習内容としては、内閣や地方公共団体の政策の実行のために予算が組まれ、税金が使われているという関わりがあることが想起される。

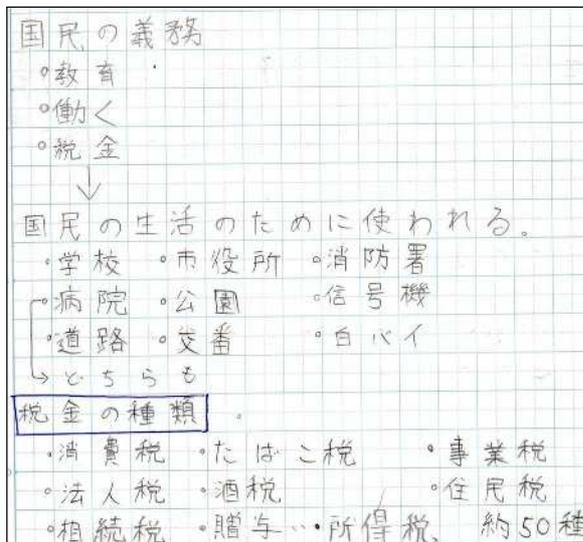
子供たちにとっては、よく分からない税金。「消費税」という言葉は聞いたことがあっても、税金がどのような役割を果たしているかは、ほとんど知らない。そこで、今回の税金に関する学習では次のようなところをポイントにしてみた。

- ① どんな税金があり、何に使われるのか知る
- ② 「もし税金がなかったら」というシミュレーションを取り入れる
- ③ 今後どのようなところに使ってほしいか考える

※①, ②については、法人会の租税教室でも学習する。

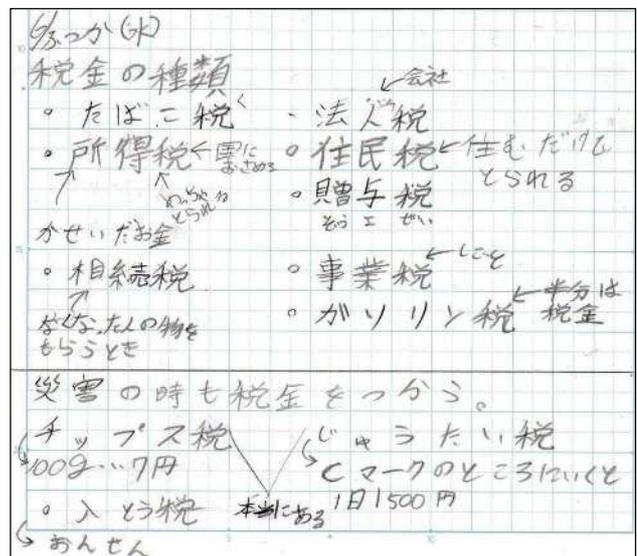
3 指導の実際

① どんな税金があり、何に使われるのか知る



6年生の社会科では、日本国憲法について学ぶ。その中の国民の義務に納税がある。ここから学習を始めた。

子供たちは税金についてある程度の知識はもっていると思われたが、消費税という名前を知っているぐらいで使い道についてはほぼ知らない状態であった。



まず、身近な例として学校にあるものや警察・消防の施設やそこで働く人の給料、道路や橋などに税金が使われていることを説明した。その後、各自タブレット端末で税金の種類など税金の概略について調べる活動を行った。

①(必)  
国民の義務  
・教育  
・働く  
・税金を納める  
↓  
国民の生活のために使われる。  
・学校  
・教科書  
・公園  
・市立とかの病院  
・道路  
・信号機  
・先生のさきょう  
・理科の  
・白バイとか

活動の中で子供たちは、様々な種類の税があることや、珍しい税もあることを知り興味関心を高めていった。そして、税金が自分たちの生活に大きく関わっていることを知り、その大切さに気づき始めていった。

税金の種類  
・消費税  
・酒税  
・国税  
・たばこ税  
・所得税  
・自動車重量税  
・法人税  
・住民税  
・市町村に納める  
・相続税  
・入湯税  
・贈与税  
・固定資産税  
・事業税  
・とん税  
・国民健康税  
・ガソリン税  
世界  
ヨーロッパ  
チップ(健康増進税)  
イギリス  
渡帯税

## ②「もし税金がなかったら」というシミュレーションを取り入れる

次に、税金がなかったら世の中がどうなってしまうのかを考える活動を行った。これによって税金の大切さがよりクローズアップされ、その役割が分かりやすくなると考えたからである。

もし、税金がなくなったら、どうなるだろう？  
・学習能力に差が出る  
・授業料がかかると  
・災害の後が放置される  
・戦争などの理由で貧しい国を助けられない。  
・公園などの公共の場がなくなる  
・タブレット、教科書有料  
・信号機ない…事故増  
・いろいろに差が出る。

もし、税金がなくなったら、どうなるの？  
・災害が起きたときに家とかはもちろそのところもこわれたまま  
・道路がこわれたらなおすのお金おそくなる。  
・信号機がつけられなくなるからここが多くなる。  
・お金もちが有利になる。  
→病院、学校など  
税金がないと生活がきつくなる。

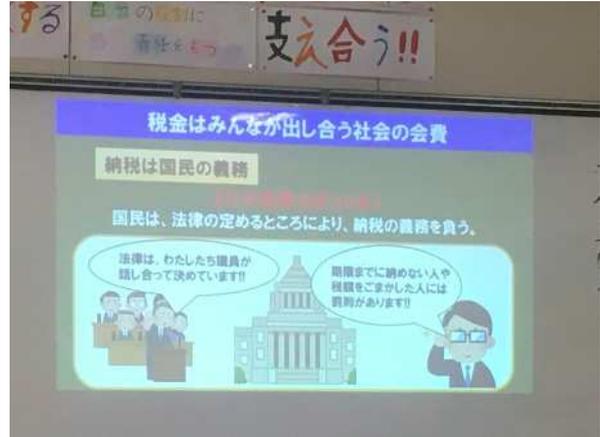
もし税金がなくなったらどうなるだろう？  
・お金がある人しか、病院に行ったり、勉強ができなくなる。  
・火事などがおきても、お金がある人しか、消防を呼ばない。  
・道路の整備ができない。  
・お金がある人が快適な暮らしができる。  
・物が税金の分安くなるが、不便になる。

「お金のある人しか勉強できなくなる。」「災害が起きても(直せず)に壊れたままになってしまう人もいる。」  
「火事が起きても消防車を呼ぶのにお金がかかる。」  
といった意見が出された。

子供たちはいわゆる公共サービスに着目し、貧富の差によって生活水準が大きく変わること気付いていった。「税金がないと生活がきつくなる。」という言葉が印象的であった。

## ※ 法人会の皆さんによる租税教室の実施

6月3日に法人会の方がいらっやっやって、租税教室を行っていただいた。分かりやすいお話やスライド、動画で、子供たちの興味関心も高まり、税に関する理解も深まっていった。(内容は児童のノートを参照してください。)1億円のレプリカを持って興奮する子供も見られた。



税金はみんなが納めている。  
 税金は50種類もある  
 公立のものばほとんどの税金は  
 海外の人を助けるために税金を  
 つかたりしている。  
 ・公園や信号も税金がなくなると  
 管理できなくなりなくなる。たりする。  
 ・火事の火を消すだけでお金か  
 かる。  
 ・災害の復旧や復興に税金がつか  
 かれる。  
 税金はみんなが出し合う社会の  
 会費  
 ・コロナウイルスの対策には税金  
 はつかゆれてない  
 集ま。ている税金はつかいみんが  
 きま。てる。  
 ・税金はないとだめ。  
 1 税金は身近でつかわれている。  
 2 税金は安心してくらすための社会の  
 会費  
 3、

まとめ  
 1. 税金は身近で使われている。  
 2. 税金は安心してくらすため。  
 3. 税金は選挙で選ばれた人が、使  
 い方を決めてる。  
 1億円は10kg  
 1億円でボールが作れる。  
 15億円で学校が作れる。  
 税金がなかった時代はという  
 生活だ。たのか。なるほど。

・オリンピックの報しう金には  
 税金がかからない。(昔はかかっていた) 1992年に  
 なくした。  
 ・税金はみんな納めている。  
 ・公立は税金で建てられたもの。  
 ・税金は守金  
 快適 } このよな生活が  
 健康 } できるように。  
 平等な教育  
 他の国を助ける)  
 税金がなくなると  
 道路がこわれてもおさげない。  
 信号がつかないから事故が多くな  
 る。火事などの時お金がたくさんかかる。  
 選挙で選ばれた人が話し合。て決  
 める。  
 災害がおきた時も使われる。  
 令和2年には690億使われた。  
 税金はみんなが出し合う社会の会  
 費  
 願い→案を出す→議会で議決  
 選ばれた人

子供たちは租税教室の感想を次のように書いている。

税金の学習をした感想を書こう  
 ・税金は50種類もありかかるとお金の多いけど、その分教育や道路の整備がされているから日本に税金があつて良かったと思つた。  
 ・税金があるおかげで、快適な生活ができてると思つた。

税金の学習をした感想を書く  
 税金によって私達の生活が成り立っていることが分かった。税金を納めなくなつてしまつたら、ごみの処理や、学費に使われている税金がなくなつてしまうのは怖いと思いました。

税金の学習をした感想を書きましょう。  
 最初は税金を何かはらふこととするの、意味をいまいち分かっていないと思つていましたが、しつくりとはらふ意味があることが分かりました。税金はせつたい必要だと思つた。

ここまでの学習を踏まえて、税金の大切さやなくなつてしまうと生活が逆に大変になってしまうことにつれた子供が多く見られたことから、学習内容が効果的であつたことがうかがえた。



税金に関する学習で、調べる活動を行ったときには、国税庁の「税の学習コーナー」のサイトを活用した。小学生にも分かりやすい内容で、理解を深めるのに有効であつた。

法人会の皆さんの授業でも動画を見せていただいたが、このサイトにもいくつか動画が紹介されている。ここにある「ご案内します、アナザーワールドへ」というタイトルの動画は以前から活用している。中学生向けとなっているが、6年生にも十分理解できる内容である。

ご案内します アナザーワールドへ (中学生向け)	
配信月	平成19年3月
再生時間	15分57秒
Windows Media Player	高画質 <span style="margin-left: 100px;">低画質</span>
内容	このビデオは、みなさんがこれからどういう社会に暮らしたいかなどを考えるきっかけにもらえるよう、日本の財政や税のしくみを学習できる内容となっています。(16分) (あらすじ) 若いのに愚痴っぽい会社員とソフトな物腰の影に悪魔のような冷たさを漂わせる謎の紳士。 謎の紳士が会社員を導いた世界とは一体・・・。

▶ CD・DVD等での貸出しを希望される方はビデオ一覧をご覧ください。

③ 今後どのようなところに使ってほしいか考える

震災後、石巻の復興のために多くの税金が使われてきた。それを振り返るとともに、これからどのようなところに税金を使ってほしいか、子供なりに考えてみた。

震災復興の願いを実現する政治  
2011.3.11 → 2021.6  
震災から今までに  
どんな変化があつたか？

- 復興記念公園ができた。
- 防災センターができた。
- 復興住宅ができた。
- 堤防
- 橋
- 遼東方の道路

↓

誰がどうや、をつくっているのか？

内閣、復興庁…国、復興庁  
の県、復興庁  
市、復興庁

税金を使ったり法律を決めたりしてつくる。

市議会ではどんなことをして  
いるのだろうか。  
予算を決める。  
条例をつくる。

震災から復興するために税金を使  
って、どんなことをしてほしいか  
(自分の考え)

- ・避難場所  
(たくさんの人がいなくてもいいよう)
- ・海水浴場  
(震災でなくなつた場所もあるから)
- ・震災について教える所  
(災害の怖さを知ってもらうため)
- ・家をなくした人への寄付  
(元の生活ができるように)

④ 堤防、強い建つて物、建て物施設  
・楽しめる場所

震災から復興するために税金を使  
って、どんなことをしてほしいか  
ですか？

(自分の考え)

外国人だけでなく、観光客の人でも  
震災の時や後のことを分かりや  
すく知れる場所をつくってほしい。

理由

外国人の人に震災のことが分  
らなければ、外国で大きな災害があつた  
時、「がんばるよ」「気をつけてね」とか思  
つてくれる。

⑤ 個人への支援

- 建物、道路、施設をつくる。
- 楽しめる施設をつくる。公園

も、楽しめる場所をつくる。

震災から復興するために、税金を使  
って、どんなことをしてほしい  
ですか？

(自分の考え)

- ・復興住宅を新しく

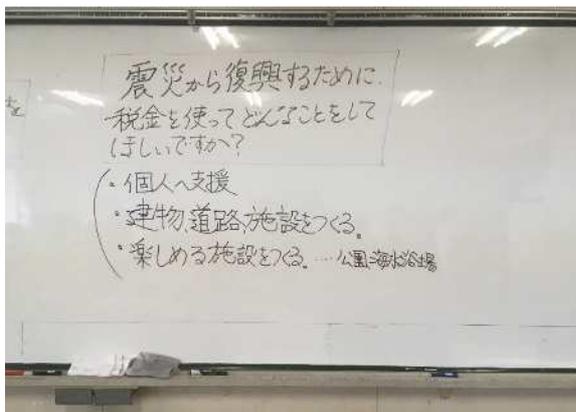
理由

震災から10年がたつので、10年  
前には、つくれなかつた場所(街に  
近い)に快適な家をつくらせて、住  
んでもらうことで、少しでも生活  
が楽になつてほしい。

- ・公園、お花見所

理由

公園として、気軽に足を運べる  
老人から子どもまでが天気のいい  
日にふれあえる。コンビニを備え  
た高くて、丈夫な施設。



「避難場所を増やす」「復興住宅を新しく」「家をなくした人への寄付」「海水浴場を元どおりに」「外国人にも震災のことが分かるような施設を」といったものが挙げられた。

荒唐無稽なアイデアではなく、現実をよく見つめており、子供たちも復興のことを真剣に考えていることがよく分かった。

#### 4 おわりに

税の学習は、指導要領にも載っているものの教科書での扱いは小さく、時数も多く割り当てられていない。しかし、政治に関心をもつような大人を育てるためにも、子供のときから税金が何に使われるのかについて学び、興味関心をもち、社会は自分たちの手でつくるのだという自覚をもった市民になれるように学習を仕組んでいきたい。

今回の実践を通じて、社会科の学習ではシチズンシップを育てていくことが重要であることを再認識した。

# 租税教育実践発表会資料



石巻市立 湊中学校

講師 澁谷 直樹



問2 あなたは、税の種類について、どんな税を知っていますか？(複数回答可)

わからない(3)  
 消費税(9)所得税(3)関税(2)贈与税(1)  
 住民税(1)たばこ税(1)温泉税？(1)法人税(2)  
 直接税(1)間接税(1)納税？(1)租税(2)  
 税金(3)

最も、身近な税として「消費税」があること、その他の税について知っている生徒がいる一方で、知識があいまいな生徒も多いことが分かった。

問3 あなたの税に対する考えや思いを自由に書きなさい。



公共のものに使われているというイメージの生徒が多いことが分かった。

### 3 指導にあたって

本校は、宮城県の沿岸部にあり、10年前の東日本大震災において、甚大な被害を受けた場所にある。そのため、地域の復興に税が使われていることを身近なものとしてとらえている生徒も多いことが分かった。また、学習指導要領に「財政の持続可能性に関わる概念などと関連付けて多面的・多角的に考察」とあるように、税に関して、主体的に学ぶためには、系統立てて学習することが大切と考える。そのために、本来ならば、税に関する内容は、3年生の公民で扱うのであるが、歴史を学習している2年生のうちに、国税庁の資料を用いて、2年時のうちに歴史的な側面から税について学習し、来年度、再度学習することで、主体的に税について考える生徒を育てていきたい。

### 4 指導計画(3時間扱い)

	学習活動	内容
1	税の歴史について知る	国税庁ホームページ「税の学習コーナー」を用いて、税の歴史を知る。
2	税について調査する	税について知りたいことを、タブレット端末で調べ学習をする。
3	税について調査したことを発表する	学んだことを発表し、共有する。

## 5 学習活動の展開

時間	学習活動	学習の様子・指導上の留意点
1	1 知っている税をあげてみましょう。	①自由に発表。 ※消費税，所得税などが挙がった。
	2 税は，なぜあるのでしょうか。また，税の使い道についても，考えてみましょう。	②自由に発表。 ※学校，道路，救急車，警察，政治，ワクチン代，iPadなどが挙がった。
	3 税の歴史を振り返ってみましょう。 ・iPadでGoogle「classroom」を活用 ・国税庁hpの「税の学習コーナー」の学習・発展編「税の歴史」を活用して，既習事項を振り返る。	③自由に発表。既習内容を共有する。 ③飛鳥時代，奈良時代，平安時代に掛けて，税の目的や税がどのように移り変わったかなどを振り返る。 ③室町時代や江戸時代には，どのような税が存在したかなどを振り返る。
	4 現代の税について，学習しましょう。 ・国税庁hpの「税の学習コーナー」の租税教育用教材「中学生用教材及び講師用マニュアル」を開き，現代における税のあり方について学習する。	④税が，自分たちの生活の様々な部分に生かされ，支えとなっていることを知る。 ※「公立学校の児童・生徒1人あたりの公費負担教育費」で，自分たち1人1人にかかる金額を知り，驚く様子が見られた。 ※「税の国際比較」消費税の課税標準税率の「世界の消費税率」に驚く様子が見られた。
	5 税について，興味のあることを調べ，まとめてみましょう。 ・生活班ごとに，国税庁hpの「税の学習コーナー」の学習・発展編の資料を見て，自分たちが調べる課題について相談し，決定する。	⑤生活班で，税についてそれぞれが興味を持ったことについて共有し合い，班ごとにまとめる内容を検討して決定する。 ★iPadでGoogle「classroom」を活用し，班ごとのgoogleスライドを送信する。
2	6 各班で決めたテーマについて，調べてまとめましょう。 ・iPadやpcを用いて，googleスライドを使用。 ・生活班ごとに，国税庁hpの「税の学習コーナー」の学習・発展編の資料を参考にして，調べ・まとめ活動を行う。	⑥各班で役割分担をし，googleスライドによる調査・まとめ活動を行う。 ★報告会での役割分担も決めさせる。
3	7 税に関する調査・まとめ活動の報告会	⑦各班で税に関して興味を持って調べて，googleスライドでまとめた内容を発表する。 ★電子黒板，pc，iPadを準備する。
	8 まとめ・振り返り ・googleフォームの振り返りアンケートを活用。	⑧租税教育授業を振り返る。 ★iPadでGoogle「classroom」を活用し，googleフォームで作成したアンケートを送信する。 ⑨全員のアンケートへの回答終了後，感想やアンケート結果を共有する。

【実際に生徒が発表したスライドの一部】

① 「税金が何に使われているか」を調べ、そこから「税金がなくなったら」と発展させて発表した班

### 1.税金って何だろう？

納められた税金は、  
・警察、消防 ・道路、水道の整備 ・年金  
・医療 ・教育  
などに使われている。これらに必要なお金をみんなで  
出し合って負担するのが「税金」である。  
税金は社会を支えるのに欠かせない存在なのである。  
そんな税金がもし無くなったら、.....



### 税金がなくなったら

- ・救急車が**有料**に
- ・医療費がすべて**自己負担**に
- ・ごみ収集が**有料**に
- ・交番が**有料**に

このように、税金がなくなったら**公共サービス**を受けるのに全ての費用を自分で負担しなければならない。みんなが豊かで安心して暮らしていくのに、税金はとても大切。

② 「税の種類」を調べ、そこから「みんなのために役立つ活動に使われる」とまとめた班。

### 税について(・▽・)

- 1、税って何だろう
- 2、税の種類
- 3、税の使い道



### 税は会費のようなもの

私たちが納めた税金は、「みんなのために役立つ活動」や、「社会での助け合いのための活動」に使われています。  
そのために必要なお金をみんなで負担するのが「税金」です。  
つまり税金は、みんなで社会を支えるための「会費」といえるでしょう。

- ・「みんなのために役立つ活動」=警察・消防や、道路・水道の整備
- ・「社会での助け合いのための活動」=年金・医療・福祉・教育など

③ 「世界の税」について調べ、そこから、他国と日本の違いや、もし税がなくなったらと考えた班

### 世界の税

～日本と海外諸国の税～



### まとめ

- ・世界で消費税が一番高い国はハンガリー
- ・日本の税は、他国と比べてそこまで高いわけではない
- ・もし、税金が無くなったら何か危険な事が起きたとしてもお金を払わないといけなくなる。

④申告納税制度について調べた班



納税？ 義務？

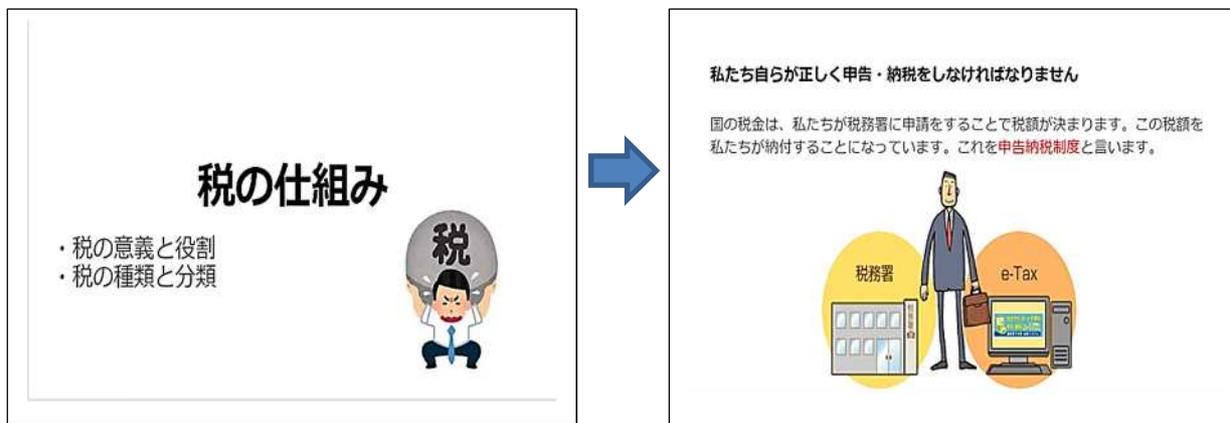
### 納税の義務



### なぜ税が必要なのか？

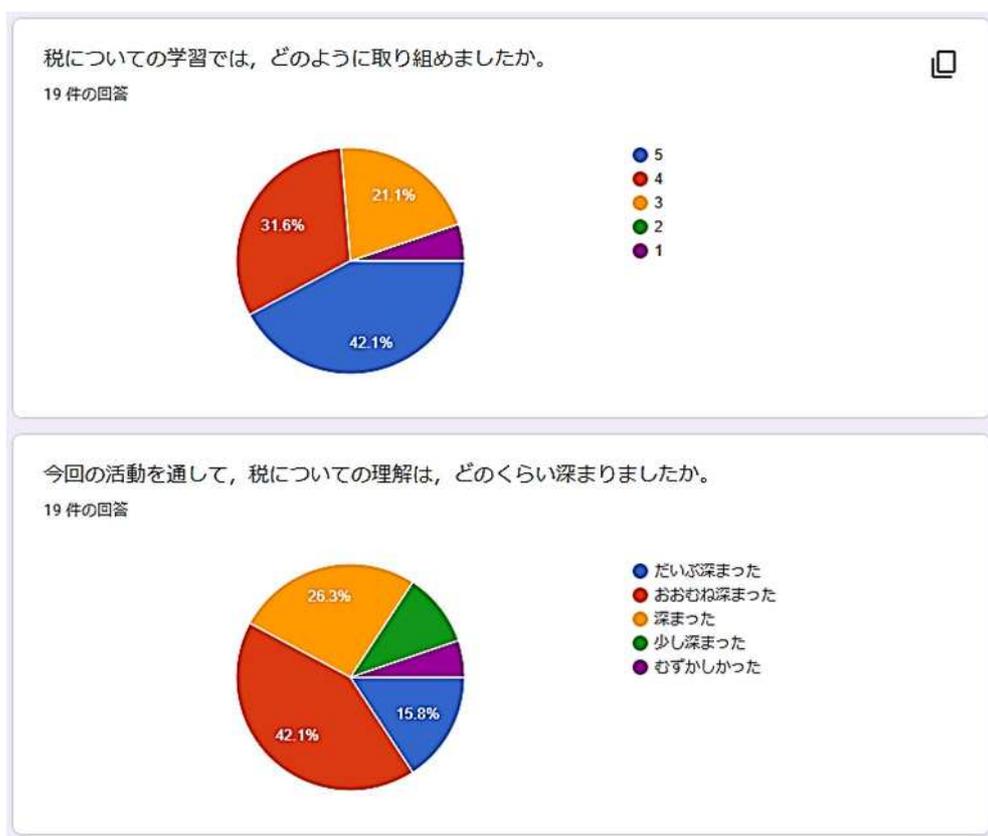
私たちが健康で文化的な生活を送るために、個人ではできない様々な仕事している  
↓ そのために・・・  
多くの費用が必要になるその費用を『税金』という。

⑤ 「なぜ税が必要なのか」という視点から、「税の種類」を調べた班



6 生徒の感想

実践後、のアンケートの結果、「税についての学習では、どのように取り組めたか」という質問に対して、肯定的な意見が94.7%であった。また、「今回の活動を通して、税についての理解はどのくらい深まったか」という問いに対しては、肯定的意見は84.2%であった。



[生徒の感想]

- ・税がいっぱいあるんだと理解した。
- ・面白かった。
- ・税はあったほうがいいと思った。
- ・楽しかった。
- ・自分たちで税について調べたり、まとめたりする事で税についての知識を増やすことができたので、良かったです。
- ・税は、私たちが生活する上でとても大事なものだと感じた。

- ・税についてあまり考えたことがなかったけど、今回でたくさん税金の役割が分かって良かった。社会に向き合いたいと思った。
- ・税金について、いろいろなことが知ることができて良かった
- ・税の種類がたくさんあって難しかったけど、税の種類を知ることができて良かったし、班での調査活動も楽しく取り組むことができたから良かった。
- ・消費税くらいしか分からなかったけど、色々分かったような気がする
- ・スライドで分かりやすくまとめるのが難しかった。税の仕組みについても改めて知ることができて良かった。
- ・税にはいろんな種類がある事を知ることができました。
- ・いろいろな税に関する事を知ることができたので、良かったです。これからもっといろいろな事を知りたいと思いました。
- ・いろいろな税金があるという事を知ることができて良かった。
- ・身近にある税金だけど、知らないことばかりだったので、今回の学習で学ぶことができて良かった。
- ・税のことがいろいろ分かったので良かったです。
- ・楽しく税のことを調べて、みんなで税のことをまとめられたので良かったです！（・▽・）
- ・スライドを使った作業など難しいこともあったけれど、様々な税の種類や税の役割など、前まではあまり詳しくなかった税について色々知ることができて良かったです。

## 7 成果と課題

- ・税の歴史を振り返り、現代における税の種類を知ること、人口増加に伴う、国政運営のための税収の必要性がより高まっていることを考えさせることができた。
- ・税に関して、生徒自身が関心を持ったことを調べたり、まとめたりさせることにより、より理解を深めさせることができた。
- ・タブレット端末を活用しての意見交換やまとめを行うことで、普段、言葉を発しての発表を苦手とする生徒も意欲的に活動に取り組む姿を見ることができて良かったと思う。
- ・税に対して、より身近にとらえ、いかに必要なものかと考えさせることができた。
- ・今回の活動を通して、次年度は、地方自治における税の活用についての学習をより細やかに進め、更に理解を深めさせたいと思う。

令和3年度

# 租税教育実践発表会資料



女川町立女川中学校  
教諭 沖田 淳

## 1 はじめに

「租税」と聞いて、誰しもがまず思い浮かべるのは、「負担感」と言えるのではないでしょう。これは、中学生でも同じです。令和元年の10月に消費税が8%から10%に引き上げられてからは、特にその気持ちが強くなっているようです。しかし、その一方で、国および地方公共団体の財政が、かなり厳しい状況にあるのも事実です。特に、高齢化社会をどう切り抜けていくかは深刻な問題です。その対策の1つとして、高齢化のピークを迎えると予想される西暦2025年までに現役世代の保険料負担を26%に引き上げるとともに、公的年金の給付水準を大幅に削減する案が検討されているそうです（朝日新聞1997年11月1日朝刊）。そして、その現役世代に当たるのが現在の中学生たちであり、年金を給付される側になるのが私自身なのです。

このような状況の中で、納税の負担感だけを強調し、不平不満を言っているだけでは何の解決にもなりません。そこで、これらの問題を自分たちの問題としてとらえ、よりよい「生き方」を自分なりに選択したりしていく上での僅かながらでも糧となってくれることを祈りながら、本実践を行ってみました。

これは、平成9年度の租税教育実践発表会で実践発表した私の原稿の冒頭の一文である。あれから二十年以上の歳月が流れたが、税をめぐる問題状況には何ら変化がないように思われる。むしろ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、状況は更に深刻になっていると感じる。しかし、そのような中であっても、日経平均株価が3万円を突破し、バブル景気以来の高値を付けている。そして、この相反する状況の中で、ますます経済格差が拡大しており、「だれが、税をどのように負担し、どのように使っていくか。」という問題は、より切実なものとなっている。

このような中で、20年以上前に抱いた「これらの問題を“自分事”としてとらえ、『持続可能な社会』の在り方について考えたり、さらには、自らのよりよい『生き方』を生徒たちが自分なりに選択したりしていく上で、きっかけとなるような授業を行っていきたい」という思いを改めて強く感じている。

## 2 指導にあたって

### (1) 生徒の実態（税に関するアンケート結果から）

現在の生徒たちは、税金に対して、どのような思いを抱いているのだろうか。それを探るべく、「税金について、あなたはどう思うか。」と質問した。生徒たちの思いは、昔も今も変わらないだろうという私の予想に反し、「税金がなければ、自分たちは今の生活ができないので必要だ。」「社会を作るために必要なお金」「なくてはならないもの」などと、実に8割の生徒が肯定的に捉えている。この結果は、小学校から行われている租税教育の成果と言えるのかもしれない。一方、税を否定的に捉えている生徒は、「高い」「なくていい」「嫌だ」などと、さしたる根拠等はなく、感覚的に回答している傾向が見られる。

また、「税が何に使われているかを知っているか。」の質問には、「警察や消防」「学校や道路の建設など生活の中で使われている。」など、「税金にはどのようなもの（種類）があるかを知っているか。」には、「消費税」が最も多く、「収入が多くなるほど税金が高くなる制度（累進課税）についてどう思うか。」に関しては、無回答が多い等、断片的な知識は持っているが、ごく一部の生徒を除いて、ほとんどの生徒が、税に関して不十分な知識しか身に付いていない。さらに、「実感」を伴う形で、すなわち“自分事”として税の在り方について考えることの重要性を感じていないという実態がうかがわれる。

### (2) 租税教育の目標（学習指導要領と教科書の学習内容との関連から）

#### ① 学習指導要領との関連

学習指導要領（中学校社会科公民的分野〈内容〉B 私たちと経済(2) 国民の生活と政府の役

割) に示されている税に関する学習を通して身に付けさせたい学力を、「評価の3観点」に基づいて整理すると次のようになる。これを租税教育の目標として設定した。

<知識・技能>

- 財政及び租税の意義, 国民の納税の義務について理解している。

<思考力, 判断力, 表現力等>

- 対立と合意, 効率と公正, 分業と交換, 希少性などに着目して, 財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し, 表現している。

<学びに向かう力・人間性等>

- 国民の生活と政府の役割について, 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

## ② 教科書の学習内容との関連

本校では, 東京書籍『新しい公民』を教科書として使用しており, 租税教育に直接的に関わる学習内容は, 第4章第4節「財政と国民の福祉」に当たる。特に, 第1項「私たちの生活と財政」では, 学習課題「私たちが納める税金はどのように使われているのでしょうか。」を受けて, 財政の仕組み, 様々な税金, 税金の公平性の3点から税金に関して学習することになっている。また, その後の項で, 社会保障や少子高齢化と税の関連について扱っていくことになっている。

項	主な学習内容	税に関わる学習活動
1	私たちの生活と財政	・税金の種類や仕組みについて理解する。 ・公正の観点から税金の負担について考える。
2	財政の役割と課題	・税がどのように使われているかを理解する。 ・財政政策における税の役割を考える。
3	社会保障の仕組み	・社会保障制度の在り方と税の関係を考える。
4	少子高齢化と財政	・少子高齢化と世代に応じた保険料や税の負担の在り方を考える。

## (3) 指導の方針と留意点

- ① 教師が教え, 確実に習得させるべき学習段階と, 習得した事項を生かして考えさせるべき学習段階に分けて, 生徒の思考過程も踏まえて, 学習事項を構成し, 指導を進める。
- ② 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から生徒同士による話し合い活動は行わないことにする。また, 知識の確実な習得を目指して, しっかりと教え込むために, あえて一斉授業型スタイルでの授業を試行することにする。
- ③ 税に関する基礎的な知識の定着を目指して, 2段階での学習を行う。
  - ・まず, 家庭学習での予習として, 生徒たちは, 学習課題プリントを用いて, 教科書の内容に関する学習内容について自己学習に取り組んでくることにする。
  - ・次に, 授業の前半では, 『中学校社会科用学習資料 私たちの暮らしと税 令和3年度版』(宮城県租税教育推進協議会, 仙台国税局作成)を中心資料として, 国や地方公共団体が行っている仕事の概要と税金との関わりについて, 教師の説明を中心に授業を進める。
- ④ ICTを活用し, 資料をプロジェクターで投影し, 資料のどの部分の説明を行っているのかを生徒に確実に把握させた上で授業を行うことにより生徒の理解の促進を図る。
- ⑤ 学習指導要領には, 内容の取扱い方に関して, 『「財政及び租税の役割」については, 財源の確保と配分という観点から, 財政の現状や少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて考察し, 表現させること。』との記述がある。そこで, 習得した学習事項を生かして生徒に考えさせる場面では, 「財源の確保」と「(税の)配分」の視点を重視して授業構成を考える。

3 授業実践の概要（第1時「私たちの生活と財政」に関して、教師が、生徒にどのような働き掛けを行ったかを中心に記述した。）

階	学習・指導の過程 ○は教師の指示・説明・発問等を、※は留意事項を示す。
予習	<p>1. 予習を家庭学習で行い、学習内容の概要をつかむ。</p> <p>※ 教科書の記述内容に沿って構成した学習課題プリントを用意し、生徒が、予習として各自自己学習し、税に関する学習内容の概要を把握してくるよう指示した。それを本時の授業での学習につなげる。</p>
導入	<p>2. 本時の学習課題の把握と学習の流れについて確認する。</p> <p>○予習で、一通り税の役割や種類について学習してもらいましたが、今日は、さらに、この資料『私たちの暮らしと税』を使って、税金について理解を深めていきましょう。</p>
展開 ① 知識の習得の段階	<p>3. 税金の種類について理解する。</p> <p>（1）どのような時に、どのような税金を負担しているのかを確認する。</p> <p>○まず、資料の2ページ「税金の種類を見よう」を見てください。税には、このようなものがあります。（※資料をもとに主なものに触れる。）</p> <p>○さて、次の文章の中に、どのような税が関係しているか？それを参考にして考えてみてください。（※タブレットの画面の次の文章をプロジェクターで提示し、読み上げた。）</p> <div data-bbox="300 887 1382 1189" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Aさんは、女川町に家を建てて住んでいます。会社を経営しており、年間1,000万円の給料を得ています。また、酒とたばこが大好きです。先月、お父さんが死んだので、一億円の遺産が入りました。さらに、お母さんから2,000万円のお小遣いももらいました。ある日、Aさんは、ドイツ製の車がほしくなったので、3,000万円で買いました。その車で、ゴルフに出かけ、途中でガソリンを入れ、その隣にあったコンビニのイトインコーナーで、サンドイッチとコーヒーを食べました。ゴルフが終わった後、近くにある温泉で汗を流してから家に帰りました。</p> </div> <p>○ある面では、何気ない日常生活とも言えますが、実は、このように様々な種類の税金が関係しています。（※次の文章をプロジェクターで提示し、補足説明を行った。）</p> <div data-bbox="300 1274 1382 1704" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Aさんは、女川町に家を建てて住んでいます（消費税・固定資産税・住民税）。会社を経営（法人税）しており、年間1,000万円の給料（所得税）を得ています。また、酒とたばこが大好きです（酒税・たばこ消費税）。先月、お父さんが死んだので、一億円の遺産（相続税）が入りました。さらに、お母さんから2,000万円のお小遣い（贈与税）ももらいました。ある日、Aさんは、ドイツ製（関税）の車（各種自動車関連の税）がほしくなったので、3,000万円で買いました（消費税）。その車で、ゴルフ（ゴルフ場使用税）に出かけ、途中でガソリン（揮発油税）を入れ、その隣にあったコンビニのイトインコーナーで、サンドイッチとコーヒーを食べました（消費税）。ゴルフが終わった後、近くにある温泉（入湯税）で汗を流してから家に帰りました。</p> </div> <p>○ところで、税金は、国によって異なります。世界には、このような税もあります。（※独身税、ポテトチップス税、脂肪税、砂糖税、渋滞税、犬税などに触れた。）</p> <p>（2）税金には、国税と地方税、直接税と間接税の区別があることを理解する。</p> <p>○資料の中に「国税」「地方税」という区別、また、地方税には、「都道府県税」と「市町村税」という区別があります。これは、税金をどこに納めるのか、別な言い方をすれば、どこが税金をとっているのかということを示しています。例えば、たばこ税は、宮城県と女川町が、それぞれとっています。そのため、タバコ屋さんには、「たばこは町内で買しましょう。」という掲示物があります。</p>

○次に、「直接税」と「間接税」の違いを説明します。税を納める義務のある人＝納税者と言います。税を実際に負担する人＝担税者と言います。それが、同じ人の場合には、「直接税」、違う人の場合は、「間接税」と言います。一番分かりやすいのは、消費税です。消費税を納めなければならないのは、商品を買った人ですが、実際に納めているのはお店の人です。お店の人が、税を納めなければならない買った人によって変わって代わりに、つまり、間接的に納めるという形になるので、「間接税」という言い方をします。

#### 4. 税の意義を理解する。

##### (1) 税が何に使われているのかを確認する。

○日常生活の様々な場面で、様々な税金を納めなければならないことが分かったと思いますが、ところで、こうして納めた税金は何に使われているのでしょうか。資料の1ページ「税金はなぜ必要か」を見てください。(※資料の記述に基づいて補足説明をしながら自分たちの日々の生活に関わっている事項に税が関係していることを確認した。)

##### (2) 税の必要性を確認する。

○もし、これらのことがなくなったらあなたはどうしますか。自分で何とかするか、お金を出して誰かにやってもらわなければなりません。それだけの仕事をあなたはできるでしょうか。また、それだけのお金を、あなたは出せるでしょうか。かなり難しいと思います。しかし、一人の力では、どうしようもないけれど、多くの人が、お金を出し合うことでできることがあります。そこで、税金が必要となってくるのです。

○ところで、世界には、税金がない国があると思いますか。実は、あります。それは、地理で勉強した世界で一番面積の小さい国であるバチカン市国です。バチカン市国には、ローマ教皇が住んでおり、キリスト教のカトリック教会の中心地となっています。そのため、世界中から寄付金が集まってくるので、税金をとる必要がないそうです。

○また、中東の産油国には、国が石油を外国に売って稼いでいるので、国民から高い税金を集めなくてもよい国があるそうです。この新しい校舎を作るにあたって多額の寄付をしてくれた国であるカタールも、所得税も消費税も無いのに、無料で医療や教育が受けられるそうです。

○しかし、日本には、それほど多くの寄付が集まってきませんし、資源も少ないので、他の国から買ってきています。したがって税金をなくすことはできません。税金は、みんなの生活に使われており、道路や橋、学校、病院も税金で建てられています。もし、それがなくなれば、自分たちの生活が成り立たなくなってしまうのです。

#### 5. 税の仕組みを理解する。

##### (1) 所得税における「累進課税制度」を知る。

○税金の額が、どのように決められているかを見てください。資料の3ページを見てください。この表が意味しているのは、所得が多くなるにつれて、所得税の税率が高くなるということです。つまり、お金をたくさん稼いでいる人には、たくさん税金を払ってもらい、収入の少ない人は、税金を少なくしようという制度です。これを「累進課税制度」と言います。

##### (2) 消費税の仕組みを知る。

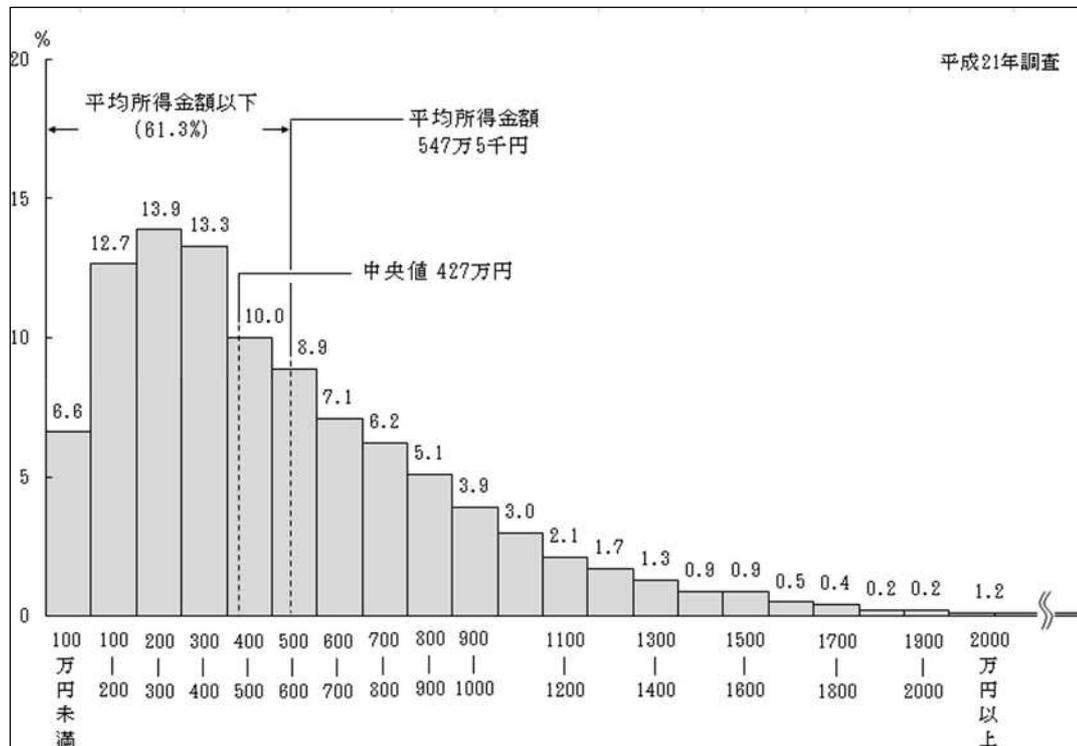
○次に消費税を見てください。消費税は、子供であろうが、大人であろうが、若者であろうが、お年寄りであろうが、金持ちであろうが、貧乏であろうが、同じ、税率が適用されています。現在、日本の消費税は10%です。1,000円の物を買えば、100円の消費税が発生するので、合計1,100円をお店に支払わなければなりません。

○ところで、コンビニで食料品を買ったときに、そのまま持ち帰るとイートインコーナーで食べるのでは、税率が違うのを知っていますか。イートインコーナーで食べると消

	<p>費税は10%、家に持ち帰って食べると8%です。これは、「軽減税率」と言って、消費税の逆進性を少なくしようという手立てなのです。皆さんもコンビニで買い物をする時には注意してください。「逆進性」については、後で説明します。</p>																						
<p>展開 習得 した 知識 の 活用 の 段階</p>	<p><b>6. 「公平性」の観点から税の負担について考える。</b></p> <p>○さて、これまで、税の種類や仕組みなどについて学習してきましたが、次に「公平性」という観点から税金について考えてみましょう。</p> <p><b>(1) 消費税の公平性について考える。(消費税の「逆進性」を理解する。)</b></p> <p>○まず、消費税の公平性について考えてみましょう。</p> <p>② 例えば、一か月に食事のために、5万円の食料品を買うと、消費税は、軽減税率が適用されて、5万円×8%で、4,000円になります。誰もが同じ税を負担することになるので、数字だけ見ると「公平」と言えますね。</p> <p>○しかし、ここで別の視点から考えてみましょう。</p> <p>①一日に、100万円の収入がある人にとっての4,000円 ②一日に、5,000円の収入がある人にとっての4,000円</p> <p>&lt;板書&gt; (※一か月の生活費として、何に、どのくらいかかるかを補足説明した。)</p> <table border="1" data-bbox="292 797 1386 887"> <tr> <td>一日、100万円</td> <td>食費 5万円</td> <td>消費税 4,000円</td> <td>「公平」?</td> </tr> <tr> <td>一日、5,000円</td> <td>食費 5万円</td> <td>消費税 4,000円</td> <td></td> </tr> </table> <p>この場合の消費税の4,000円は、「公平」と言えますか。</p> <p>同じ4,000円ですが、収入が多い人にとっての4,000円と、収入が少ない人にとっての4,000円は、同じ価値でしょうか。収入が少ない人にとっては、4,000円は大きな出費です。一日の収入に近い金額なのです。このように、消費税は、収入の少ない人ほど、負担が大きくなります。これを「逆進性」と言います。これは、「公平」と言えるのでしょうか。皆さんは、どう思いますか。(※少し時間を取り考えさせる。その後、様々な意見が出てきたが、傾聴はするが、あえてそれには答えず次に進む。)</p> <p><b>(2) 所得税の公平性について考える。</b></p> <p>○次に、所得税の公平性について考えてみましょう。</p> <p>実際には、所得税の計算は複雑になりますが、ここでは単純に考えます。例えば、</p> <p>①一日に、100万円の収入のある人は、一年365日休みなく働いたとすると、 年収は、3億6500万円なので、税率は45%で、所得税は、1億6425万円となり、 更に、一日あたりで考えると、一日の税金は45万円で、55万円が残ります。</p> <p>②一日に、5,000円の収入のある人は、一年間休みなく働いたとすると、 年収は、1,825,000円なので、税率は5%で、所得税は、91,250円 一日あたりで考えると、一日の税金は250円、残金は、4,750円です。</p> <p>&lt;板書&gt;</p> <table border="1" data-bbox="292 1615 1386 1704"> <tr> <td>一日100万円</td> <td>3億6500万円</td> <td>税率45%</td> <td>1億6425万円</td> <td>45万円</td> <td>55万円</td> <td>「公平」?</td> </tr> <tr> <td>一日5,000円</td> <td>1,825,000円</td> <td>税率5%</td> <td>91,250円</td> <td>250円</td> <td>4,750円</td> <td></td> </tr> </table> <p>この場合の所得税は、「公平」だと言えますか。所得税は、所得が多くなるにつれて、税金として納めなければならない金額が多くなる「累進課税制度」がとられていることを学習しましたが、これは、「公平」と言えるのでしょうか。単純に数字だけ見れば、明らかに「不公平」だと思いませんか。(※ここでも間を取るが、答えは出さない。)</p> <p>○そこで、別の視点から考えてみましょう。</p> <p>このグラフを見てください (&lt;資料&gt; 「所得金額階級別にみた世帯数の相対度数分布」をプロジェクターで提示する)。これは、厚生労働省で出している「所得の分布状況」を示しています。それぞれの所得の段階別に、その割合をグラフ化したものです。これ</p>	一日、100万円	食費 5万円	消費税 4,000円	「公平」?	一日、5,000円	食費 5万円	消費税 4,000円		一日100万円	3億6500万円	税率45%	1億6425万円	45万円	55万円	「公平」?	一日5,000円	1,825,000円	税率5%	91,250円	250円	4,750円	
一日、100万円	食費 5万円	消費税 4,000円	「公平」?																				
一日、5,000円	食費 5万円	消費税 4,000円																					
一日100万円	3億6500万円	税率45%	1億6425万円	45万円	55万円	「公平」?																	
一日5,000円	1,825,000円	税率5%	91,250円	250円	4,750円																		

を見ると、「200～300万円未満」が13.9%、「300～400万円未満」が13.3%と多くなっており、中央値、これは集団のデータを小さい順に並べた時に中央に位置する値ですが、427万円であり、平均所得金額（547万5千円）以下の割合は61.3%となっていることが分かります。つまり、日本の多くの家族が、この程度の所得を得て生活しているものであり、いわゆるお金持ちの人たちは、ごく一部の人たちなのです。ちなみに、国会議員の所得は、日本の全世帯のわずか1.2%の2000万円以上に入っています。

<資料> 所得金額階級別にみた世帯数の相対度数分布



- これは、平成21年の調査ですが、現在は、新型コロナウイルス感染症の影響で、特にお店をやっている人たちは、店を開けられない、店がつぶれた、などという大変厳しい状況にあります。さらに、そうなると、そこで働いている人も仕事を失うことになるなど悪循環に陥り、自殺者が増え、なんと餓死者も出るという問題まで起きています。そのため、多くの人たちの所得額はもっと低くなっているかもしれません。
- ところで、日本では、世帯の所得が、家族一人ですら112万円、2人家族で約175万円、4人であれば224万円が「貧困」と言われるラインとなります。しかし、所得の少ない人たちは決して怠けているのではないのです。いくつかの仕事を掛け持ちして、長時間働いているのに、賃金が安いために、所得が少ないのです。前に人権に関して学習したときに、女性差別についても取り上げましたが、シングルマザーとか、母子家庭と言われる人たちが世帯の半数近くが貧困状態にあり、本当にギリギリの生活をしている人が多いのです。また、その影響は、当然子どもにも生じます。なんと日本の子どもの7人に1人が貧困状態にあると言われていました。そして、それが、新型コロナウイルス感染症のためにもっと厳しい状態になっているのです。
- さて、改めて皆さんに聞きます。このような状況を踏まえて考えたときに、所得税における累進課税は「不公平」だと思いますか。（※少し時間を取り考えさせる。）
- 人は、いつ、何が、病気、失業などにより生活が困難になるかもしれません。今回の新型コロナウイルス感染症に関して起こっている様々な問題は、このことを改めて教えてくれていると言えるのではないのでしょうか。ところが、新型コロナウイルス感染症によって苦しい生活を送っている人がいる中で、株価は、バブル景気以来の3万円台に突

	<p>入しています。儲かっている会社が多いのです。世の中というのは不思議なもので、苦しく不幸な思いをしている人がいる中で、逆に、お金を得て、幸せな生活を送っている人もいます。</p> <p>○こうして考えてみると分かるように、税金には、「助け合い」の側面もあるのです。別の時間に改めて学習しますが、これを「所得の再分配」と言います。</p> <p><b>(3) ベーシックインカム、負の所得税という考え方を紹介する。</b></p> <p>○ところで、地理や歴史の勉強で何度も出てきているSDGs、持続可能な開発目標の第一は、「貧困をなくそう」です。この目標を達成していく上でも「税制をどうするか。」という問題は、重要な問題です。そこで、最後に、税による貧困対策として二つの考え方を紹介します。これは、今回の衆議院議員選挙でも政権公約として出してくる党があるのではないかとされているものでもあります。</p> <p>○まず、一つ目は、「ベーシックインカム」と言われるものです。これは、簡単に言うと全ての国民が最低限の生活を送れるように、全ての国民に、無条件で現金を給付する仕組みです。一人当たり月額7万円という案がありますが、4人家族なら28万円ということになります。これは、日本国憲法のところで学習した「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と条項にもつながるものと思います。もちろん自分で仕事をして更に収入を得てもいいのです。そして、稼いだ金額に応じて税金を納めてもらうのです。</p> <p>○二つ目は、「負の所得税」と言われるものです。さっき出てきた「累進課税」の考え方を広げて、収入の少ない人には、税金を納めさせるのではなく、逆に政府からお金を支給しようというものです。それにより、最低限の生活を保障しようという考え方です。</p> <p>○このような制度があれば、安心して生活できると思いませんか。しかし、最大の問題は、そのお金をどのようにして得るかということです。ここにも税が関わってきます。</p>
<p>終 結</p>	<p><b>7. 本時の学習をまとめ、新たな課題を提示し、次時の学習への意欲を高める。</b></p> <p>○以上、税に関して学習してきましたが、現在の制度には様々な問題点があります。それを現在や将来の日本の状況を踏まえながら、どのように変えていくべきかということを考えていくことが大切です。なかなか答えが見付からない難しい問題ではありますが、しかし、これは決して政治家に任せておけばよいことではなく、皆さんが自分なりに考えて、政治に反映させていくことが必要なのです。</p> <p>○ところで、これから生きていく上で、国だろうが、県だろうが、町だろうが、それぞれの家庭だろうが、皆さん自身も「お金」に関しては、二つのことしかありません。一つは、「収入を増やすこと」そして、もう一つは、「支出を減らすこと」です。</p> <p>○今日は、税金の面から「どうやって収入を増やすか」について考えてきたとも言えます。そのための私の一つのアイデアを話します。それは、現在の最高税率は45%ですが、それをもっと高くするというものです。例えば、年収10億円以上の方は、税率を90%にします。90%、つまり9億円の税金を納めても1億円も残ります。実は、この金額は、パートやアルバイトなどの形態で正規社員と同じような仕事をしている人が、一生で稼ぐお金と同じ額です。どうでしょうか。</p> <p>○次に、「支出を減らすこと」に関する私のアイデアは、現在、月額125万円ほどもらっている国会議員の給与を減らし、先程見た所得分布のグラフの平均値である550万円程度に設定する。あるいは、中央値の430万円ぐらいでもいいかな。つまり、一般国民の平均的な所得での生活を経験してもらうというものです。たとえ給与が安くても、国のために仕事をしたい、そういう人にぜひ国会議員になってほしいと思いませんか。</p> <p>○これは、私の勝手な考えに過ぎません。しかし、こうやって自分なりに考えていくことが大切なのです。次時からは、税金などの国のお金の使い方について学習していきま</p>

す。皆さんも是非、自分なりのアイデアを考えてみてください。これで終わります。

#### 4 成果と課題（生徒の感想から）

授業後、生徒に授業に対する感想等を自由に記述させた。それを基に、今回の実践の成果（○）と課題（▲）について次のように考えた（なお、文中の「」は生徒の感想を示す）。

- 事前アンケートでは、「税が高い」「いやだ」「いない」など書いていた生徒の税に関する知識を高め、税を自分たちの身近な生活に関わる事象として捉えさせることができた。  
(知識・技能)
- ・「今の安定した生活を送ることができるのは、税のおかげだということに改めて感じた。」
  - ・「累進課税や税の種類など、今まで知らなかったことをたくさん知ることができた。」
  - ・「税金で私たちの生活が成り立っていることが分かった。」
  - ・「家族などの身近なところに、税金が関わっていることを知り、びっくりした。」
  - ・「税金はいろいろなことに使われているので、なくなったらやばいなと思った。」
- 「公平」の観点等から税の役割について、多面的・多角的に考えさせることができた。  
(思考力・判断力・表現力等)
- ・「たくさんのお金を持っている人と持っていない人で、税に対する感覚が違っており、数字を見ると公平に見えても、その人々の実際の生活を想像して比べてみると、全く別のものだなとも思った。現実って厳しい！」
  - ・「お金の重みが人によって違うので、『数字的には公平』という言葉に説得力があると思った。」
  - ・「税金によって私たちの生活や、国自体が大きく動かされているということが分かった。」  
(※「動かされている」という表現が思考の深さを表していると思う。)
  - ・「お金がない人には、税は不公平な気がした。」
  - ・「国民全員にとって何が一番良いものなのかを考えると、とても難しいなあと思った。」
  - ・「税が高すぎるとダメだけれど、低すぎても他の問題が起きてしまうという微妙な関係なのだなと思った。」
  - ・「たとえ話が分かりやすく考えを深めることができた。」
- 税に関する諸事象について関心を持ち、その解決に向かおうという意識付けにつながった。  
(学びに向かう力・人間性等)
- ・「税が公平かという点は、話を聞いた限りはどうかなあという感じがしたが、実際に払う側になったら、そのあたりをもっと調べたいと思った。」
  - ・「これからどのように税制が変わって貧富の差を縮めていくのかが気になった。」
  - ・「消費税を20%に上げてもいいので、その金でもっと良い国にしてほしい。」
- ▲ 今回の授業が、生徒の税に対する知識を高め、税に関する問題の難しさを考え、感じさせるきっかけになったのではないかと思うが、その一方で、最大の目標であった“自分事”として捉えさせるという点までは至れなかったと思う。そのためには、今回の知識を生かして、生徒たちに話し合いをさせていくことが必要であり、その話し合いがより深いものとなるように、教師側で的確なテーマを設定することも重要になってくると考える。
- ※ 今回は、教師の“説明力”(＝話術とも言えるかも)を中心に授業を展開したが、まだまだ論理の構成が不十分であり、生徒の思考過程に沿っていなかったと感じる。
- ▲ 「所得が高いほど税を多くとられるのはおかしいと思った。みんな5%でいいと思う。」「国で持っているお金が増えたら消費税は、なくていいと思う。」という感想のように、財政の仕組みについての理解が不十分であるために、お金に限りがあるということに思いが至らず、「税には助け合いの側面がある」ということについての理解も不十分になってしまっている生徒がいた。次時からの学習で、知識を修正していきたい。

ところで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に関わる対策として、国民全員に一律で10万円（結局は国の借金である）が支給されたが、本来は、生活が困窮している人（貧困層の子どもは7人に一人と言われている）に分配されるべきであったはずである。そこで、生活に困っていない人には、10万円を「寄付」という手段もあったと思うが（筆者は、子どもの貧困問題に取り組んでいるNPOに寄付した）、寄付文化が普及していない日本では、その割合は、ほんのわずかであったようである。このような状況を踏まえると、国がある程度の強制力を持って、「所得の再分配」をする必要があると思う。実際に、それが財政政策の一つでもあるが、その政策の意義を「助け合い」の視点からもっと生徒たち（国民）に伝え、同意を求めていく必要があると考える。

- ▲「税なんてどうでもいい。」「自分ではどうしようもない。」これは税だけに限った話ではなく、社会事象に関する興味・関心、ましてや当事者意識などほとんどない生徒が少なからずいる。これらの生徒の意識を少しでも変えていくにはどうしたらよいのだろうか。社会科、特に公民的分野の学習を進めていく上で最大の課題である。

## 5 おわりに

ここ数年、社会事象に関する生徒たちの認識の低下を強く感じる。そして、この用語や事象については、生徒たちも“一般常識”として知識を持っているだろうという教師側の認識が、悉く打ち砕かれていく。生徒たちに家庭での生活の状況を聞いてみると、家庭での生活時間の大半が、ゲームやスマートフォン（生徒によっては、さらに学習塾等の習い事）に費やされている。さらには、テレビを見ないという生徒も多い。新聞に至っては購読していない家庭が多い。ひと昔前の生徒たちは、テレビが娯楽の中心であり、その中で、時にはニュース番組を見ることで、社会事象に関する様々な知識も得ていたが、現代の生徒たちにはそれを望めない状況にある。そうなってくると、学校での授業等を通して、生徒たちに、社会事象に関する「基本的な知識を与え、身に付けさせ」、さらに、それをもとに、当事者として「考えさせていく」ことが極めて重要になってきており、租税教育もその例外ではないと言えよう。

思えば、二十数年前に実践した際にも、税をはじめ社会における諸問題を「自分事」としてとらえさせたいという思いで授業を行ったわけだが、正直、現在の方が、その実現がさらに難しくなっていると感じる。しかし、何とか、それを打破していくための「きっかけとなるような授業」を今後も模索し、積み重ねていきたいと思う。

令和3年度

# 租税教育実践発表会資料



石巻市立鹿又小学校

教諭 松川 幸浩

## 1 はじめに

石巻市立鹿又小学校は、県内第1号校として、創立148年を迎える歴史がある小学校である。なぜ、1号校になれたのかということ、鹿又地域の方の尽力や献金、地域の発展には教育が欠かせないという考えがあったからこそ、学校が早くして創設されたとのことである。

鹿又地域の方々には、肥沃な土地があり、雄大な水資源北上川が流れているからこそ、「農作」で地域を発展させてきた。そこには、年貢（税）という土地の使用料や運営資源として「米」を藩に納めていた歴史がある。児童はこのことについては知らない。それで今回、総合的な学習の時間を中心にして、地域の方々には農作によって豊かになり、そして税として「米」を納めていたということを見ることができるよう学習を設定したい。つまり、児童が地域と税との関わりについて学べるようにしていく。



石巻市立鹿又小学校



鹿又地域の田んぼ



鹿又地域を流れる北上川

## 2 児童の実態（男子26名 女子13名 計39名）

本学級の児童は、最高学年となり下学年児童の面倒を積極的に見たり、給食の準備や清掃を自分から進んで行ったりできるようになり、責任感が高まってきた。学習では、学習課題を意欲的に真剣に行い、なぜ、どうしてと思ったことを積極的に調べる、学習意欲の高い児童である。

また、税に関する事前調査を行ったところ、全員が消費税のことは知っている。しかし、何に使われているか、税金にはどんな種類があるかについて分からないと答えた児童が9割であった。つまり、税に対する基礎的・基本的な知識が乏しい。したがって今回、石巻税務署、石巻法人会の方々のご協力を得て「租税教室」を開催し、その教室を通して税に関する基礎的・基本的な知識と理解の定着ができるようにしていく。「租税教室」は、社会科の学習として位置付ける。



### 3 指導にあたって

指導にあたっては、前述を踏まえ、次の2つの手だてを講じていく。

#### (1) 地域と税との関わり

総合的な学習の時間の一環として、地域の郷土史家女川清一さんを招聘し、地域の方々は農作によって豊かになり、そして税として「米」を納めていたということを詳しくお話いただけるようにする。また、鹿又小学校創立には、鹿又地域の方々の努力があったからということもお話いただき、鹿又地域の先人はとても努力家であったということに気付かせたい。

#### (2) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

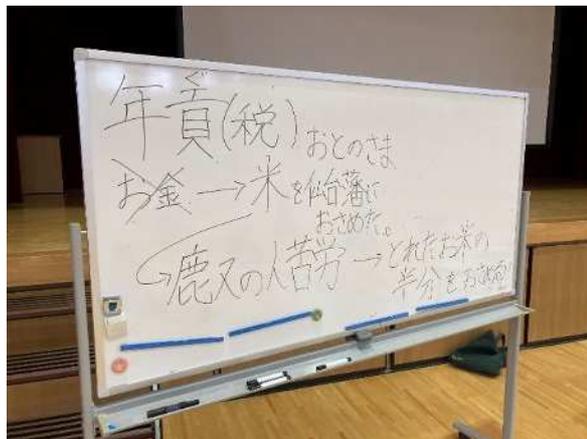
社会科の学習の一環として、石巻税務署、石巻法人会の方々のご協力を得て、講師を招聘して租税教室を実施する。その中で、税金とは何か、消費税以外にどんな税の種類があるか、税金は何に使われているかなどについて具体的なお話をいただけるようにする。また、児童は歴史について興味・関心が高いので、「税の歴史」についてもお話いただけるようにする。

### 4 実践

3 (1) ~ (2) の手だてを講じたことによって、以下の効果や変容があった。

#### (1) 地域と税との関わり

7月9日(金)に地域の郷土史家女川清一さんから鹿又の歴史についてお話いただいた。鹿又は河俣→河股→鹿股→鹿又と変遷してきたこと。鹿又小が県内一号校になったのは、地域に住んでいた方々の援助や尽力があったからなどの話をいただいた。そして、地域と税との関連として、とれたお米の約半分もを年貢として伊達藩に納めていたことを詳しくお話しいただいた。この土地は仙台藩の領土だから使用料として支払う必要があること、仙台藩が活動するための資源であるからということも説明いただいた。児童から、「昔は50%もお米を納めていたのは大変なことだけど、仙台藩のために力を尽くす鹿又はすごい。」という感想がたくさん出てきた。鹿又地域への関心が高まった良い学習となった。



## (2) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

6月24日(木)に租税教室が開かれた。石巻法人会から齋藤祐司さん(株式会社齋武商店代表取締役社長)と石巻法人会の阿部さんが来校し、お話いただいた。税金は医療や災害救助、治安維持などに使われていること、消費税や所得税などの税の種類についてもお話いただいた。

また、今回税金の歴史についてもお話いただき、飛鳥時代から、特産物や食べ物を国に納めるということも知ることができた。

感想から、「税金はなくなるとみんなが困るから払っていききたい。」「みんなで助け合うという日本人の歴史がよく分かった。」など、納税への参画意識が高まり、助け合いの精神に気付くことができた。将来に役立つ大変貴重な学習となった。



## 5 成果と課題

- 鹿又地域の納税の歴史がよく分かり、地域の先人の努力に気付くことができた。
- 税金がどのように使われているか、どんな種類の税金があるかがよく分かった。
- 資料1の通り、税は世の中を成り立たせるため、安心して暮らすために必要という意識が芽生え、児童の税への興味関心と納税に参画する意識が高まった。
- 資料2の通り、税に関する絵はがきコンクールに意欲的に取り組んでいた。
- 児童でも納めることがあるのは消費税であるが、スーパーやコンビニが遠く、大多数が自分でお金を出して買い物をしたことがないので、納税の実感が乏しい。今後予定されている修学旅行のお土産の買い物を通して、自分が納めた消費税額を算出して、納税を実感させていきたい。

資料1 児童の感想 (抜粋)

5 感想

税金が暮らしなどで必要なことが分かったし、税金がないと世界が成り立っていないんだなあと思いました。

税金について興味がわいてきました。

松川

5 感想

税金は最初からお金なのではなく、食べ物から作られたことからはじめられました。税金はみんなが納める物で、100円や10円の税がつくことを知りました。安心してくらしていくには、税金をしっかりと払うことと、大切に使うということが大切だと思いました。

松川

5 感想

税金がなくなったらどうなるのかというアニメで、たくな本は、生活が苦しくなることがわかり、1億円の重さを体験させてくれたり、税金がどうやって作られたのかがわかり、昔は、税金が米ということもわかりました。

税金の大七カさがよくわかりました。

松川

資料2 税に関する絵はがきコンクール（抜粋）



令和3年度

# 租税教室実践発表会資料



石巻市立鮎川小学校

教諭 坂本 隆一

## 1 はじめに

学習指導要領1目標(3)に「社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。」とある。

そこで、今回、「租税の仕組み」について取り上げ、主体的に学習課題に取り組ませることで、学習で学んだことを社会生活に生かそうとする態度を養うことができると考えた。児童にとって身近な課題を考えさせることで、考えを深めさせていきたい。

## 2 児童の実態

本学級は第5学年と第6学年からなる複式学級であり、第5学年は男子3名、女子1名、第6学年は男子3名の計7名で構成されている。また、本校では、A・B方式を採用しているため、令和3年度は、第5学年の社会の内容を学習している。今回、租税学習を実施するに当たり、事前にアンケートを実施した。(実施日：令和3年9月15日)結果は以下の通りである。

1 税金と呼ばれるものには、どんなものがあるでしょうか。知っているものをすべて書きましょう。

・消費税(3)                      ・分からない(3)                      ・無回答(1)

2 納められた税金は、どんなものに使われるのでしょうか。知っているものを書きましょう。

・分からない(3)  
・橋、警察署、消防署、支援しているもの(1)  
・教科書やノート、消防や救急、警察、先生の給料(1)  
・学校の教科書、公園(1)  
・日本の偉い人が自分のお金にして使う(1)

## 3 指導に当たって

アンケート結果から、税に関する興味・関心が低く、税金の種類について、「消費税」以外に知っているものがないことが明らかとなった。特に、5年生は税金に関する知識はほとんどない。6年生は昨年度、社会科がA年度学習だったこともあり、租税教室を受けていることから、租税に関する知識は、わずかだが身に付いている様子が伺えるが、税金の使い道については、間違った認識を持っている児童がいることが分かり、この学習を通じて正しい知識を身に付けさせる必要がある。

したがって、以下のことを中心に指導に当たることとする。

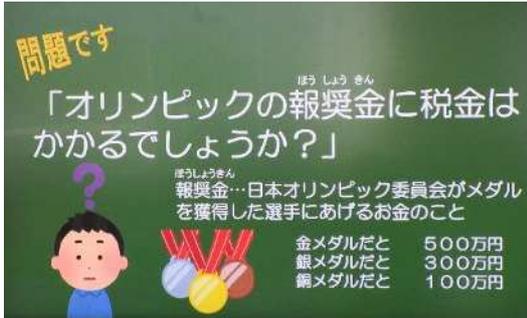
- ・今年度の社会科の学習は、AB方式のB年度に当たるため、5年生は社会科の授業を通して、直接学習することができない。そのため、法人会の方に御協力をいただき、租税教室を中心に学習を行い、税に関する正しい知識を身に付けさせる。

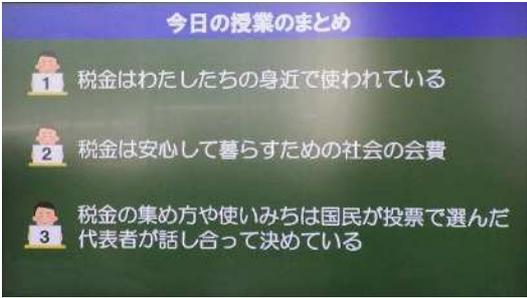
- ・ 税に関する興味・関心を高め、楽しく学べるようにするために、今年度から児童一人に配置されたタブレットを活用して学習を進める。

#### 4 指導計画（2時間扱い）

時	主な学習活動	評価規準と評価方法
1 本 時	○自分たちの暮らしと税金の関わりについて知る。 ・法人会の方をお呼びし、税金に関するお話をしていただく。（租税教室）	【主】税金に関するお話に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 【知】税金に関する正しい知識を身に付けている。
2	○タブレットを使って、税金の仕組みついて調べる。 ・国税庁「税の学習コーナー」を使って、調べる。	【知】タブレットを使って、進んで税に関する知識を身に付けようとしている。 【思】調べた内容から、どのように税金を活用すればよいか考えている。

#### 5 指導過程（2時間扱い 1/2）※租税教室の学習内容から

段階	学習活動	指導上の留意点 評価
導 入 5 分	1 身近な税について知る。 ○新聞の広告から、商品の価格に注目し、価格に含まれる「消費税」について知る。  2 本時の課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">わたしたちの暮らしと税金について考えよう</div>	・身近な素材（新聞の広告）を取り上げることで、児童の興味・関心を高めるようにする。 
展 開 35 分	3 税金の使い道について知る。 ○「税金に関するクイズ」に取り組み、使い道について理解を深める。  ・オリンピックの報奨金には税金がかかるのでしょうか。 ・税金は誰が納めているのでしょうか。 ・税金が使われている施設にはどのようなものがあるのでしょうか。	・電子黒板に映しながら、クイズ形式で取り組ませることで、児童の興味・関心を高めるようにする。 

	<p>4 もし、税金がなくなったらについて考える。</p> <p>○「もしも、税金がなくなったら」というアニメを視聴し、その場合、どうなってしまうのかを考える。</p>	<p>・税金は必要ないと考えている児童に、税金がなくなった場合にどうなるかを考えさせる。</p> 
	<p>5 税金の使い道は誰が決めるのかについて知る。</p> <p>○国民の選挙によって選ばれる国会議員が決めていることを知る。</p>	<p>・使い道を決めているのは誰か、また、どのように決められているかを考えさせ、正しい知識を身に付けられるようにする。</p> 
ま と	<p>6 改めて税金が必要かどうかを考える。</p>	<p>・本時の学習を振り返る場を設け、もう一度税金は必要かどうかを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>※税金に関する正しい知識を身に付けている。【観察・発表】</p> </div>
め 5 分	<p>7 本時の学習のまとめをする。</p> <p>①税金はわたしたちの身近で使われている。</p> <p>②税金は安心して暮らすための社会の会費。</p> <p>③税金の集め方や使い道は国民が投票で選んだ代表者が話し合っていて決めている。</p>	<p>・本時で学習したことをまとめ、振り返りをさせる。</p> 

6 授業の様子



タブレットを使って学習



教科書には税金が使われている



学習の振り返り



一億円の重さを体感

7 授業後の感想（※一部抜粋）

租税教室で分かったことを書こう  
 (6)年(1)番 名前( )

2.度目の租税教室であることと初めてのことばかり。忘れられた所もわかった事が出来て良かったです。

租税教室で分かったことを書こう  
 (5)年(一)番 名前( )

税金は世のために使われている事が分かりました。

租税教室で分かったことを書こう  
 (6)年(1)番 名前( )

今日は税のことも教えてもらいました。  
 1.税金は公園に使われている。  
 2.税金はみんな納めている。  
 3.税金の使い方は国会がきめる。

租税教室で分かったことを書こう  
 (5)年(3)番 名前( )

税金がないと通行料などお金をばらばらにしなければならぬことが分かりました。

## 8 成果と課題（成果：○／課題：●）

- 法人会の方に分かりやすく説明していただいたので，児童は短い時間でも理解を深めることができました。
- 事前アンケートで，税に関してほとんど無知の状態だったのが，今回の学習を通して，基本的な知識を身に付けることができました。
- 税に関して間違った知識を身に付けていた児童に対して，改めて考え直す良い機会となった。
- タブレットを使って学習したことで，児童の税に対する興味・関心を高めることができました。
- 本校は複式学級のため，学習内容を重複して指導することになるので配慮が必要だった。
- 本校はA B方式を採用しているため，社会科で5学年の学習を履修している年は，指導内容を考える必要がある。

令和3年度

# 租税教育実践発表会資料



石巻市立河南東中学校

教諭 中谷 友祐

## 1 はじめに

一般的に「租税教育」という言葉を聞くと、生徒たちに税の種類や使われ方、また納税の仕組み等を学ばせ、国民として税金を払う義務があることを教えるものというイメージを持ちやすい。しかしながら、税金を払うという観念を植え付けることだけが目的ではない。

中学校学習指導要領・社会における公民的分野では、「国民の生活と政府の役割」という内容項目において、「財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解すること」と、「財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現すること」が掲げられている。内容を取り扱う上で、「財源の確保と配分という観点から、財政の現状や少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて考察し、表現させる」ことに配慮することとされている。したがって本実践を通じて、少子高齢化が進む日本における国家や地方自治体の財政の現状を捉えさせ、持続可能な社会を形成していく上での租税の大切さを考えさせることで、納税者としての意識を高めることにつなげたい。

## 2 生徒の実態 [第3学年1組 男17名 女12名 計29名]

標準学力検査（R3.5実施）の結果をみると、社会的事象への関心が強く、課題について考察し、説明することができる生徒が多いことが分かった。しかし一方で、資料活用の技能や社会的事象についての知識・理解については、校内正答率が全国平均値や目標値を下回っている。これを受け、これまでの授業では適用問題や週末課題・単元テストを通じた知識の確実な習得と、資料読み取りの時間を多く取り入れ、協同学習を通じて多面的・多角的な見方・考え方に気付かせる取組を実施してきた。

税の学習に関する意識調査（R3.9実施）によれば、身近な生活の中で税金が使われているということについて具体的なイメージを持っている生徒が多いことが分かった。また、財政や租税に関する授業を受ける前の時点では、将来的に政府が増税を課すことに対しては、賛成の立場をとっている生徒が多く見られることが分かった。

### 【意識調査の結果】（Google フォームで実施，回答者数27名）

①あなたは「税金」という言葉を聞いて、どんな税を思い浮かべますか。頭の中で思いついた税の名前を入力してください。

<input type="checkbox"/> 消費税（23人）	<input type="checkbox"/> 固定資産税（3人）	<input type="checkbox"/> 所得税（5人）	<input type="checkbox"/> 酒税（1人）
<input type="checkbox"/> よく分からない（1人）			

②税金がどのように使われているか、その使い道について知っていることを入力してください。

<input type="checkbox"/> コロナ対策（2人）	<input type="checkbox"/> 警察や消防（5人）	<input type="checkbox"/> 公共の施設の整備（7人）	<input type="checkbox"/> 公務員の給料	
<input type="checkbox"/> 国の運営（3人）	<input type="checkbox"/> 国会議員の給料	<input type="checkbox"/> 国道の運営	<input type="checkbox"/> 子供の教育	
<input type="checkbox"/> 道路整備（4人）	<input type="checkbox"/> 学校の机やいす	<input type="checkbox"/> 学校の教科書（2人）	<input type="checkbox"/> 救急車（4人）	
<input type="checkbox"/> 震災からの復興	<input type="checkbox"/> オリンピック事業	<input type="checkbox"/> 社会保障	<input type="checkbox"/> 病院運営	<input type="checkbox"/> 自衛隊

③ここ数年で消費税やたばこ税など、いくつかの税金が増税されました。あなたは増税に賛成ですか、反対ですか（現時点での考えで構いません）

賛成	63%	【主な理由】 <input type="checkbox"/> 税金は生活に必要なことに使われているから <input type="checkbox"/> 増税して色々なことが便利になるなら良いから <input type="checkbox"/> 税が増えると経済が回りやすくなるから <input type="checkbox"/> 日本の借金が多いので、増税しないと返済できないと思うから <input type="checkbox"/> 自分が払った税金が誰かのために使われているのなら嬉しいから
----	-----	---

反対	37%	<b>【主な理由】</b> ●いくら増税しても国が豊かにはならない ●負担が増える。今まで買っていたのが高くなるのが嫌。 ●今のままで十分だと思う ●消費税やタバコ税を増税すると値段が高くて買う人が減ってしまうと思うから
----	-----	---

### 3 指導にあたって

全体を5時間扱いとし、前半部分では税金の仕組みと使い道、財政の役割、社会保障制度の仕組みについての知識を身に付けさせる。その際、生徒たちに納税者としての意識と現代社会における税の役割の大切さを捉えさせるために、宮城県租税教育推進協議会と仙台国税局が制作した「私たちの暮らしと税（令和3年度版）」を授業内で活用し、国家予算や各種税率、社会保障費の統計データ等を読み取らせながら、これからの社会と税の在り方について考察させる。

後半部分（本時の授業）では、前時までに学習した少子高齢化による日本の財政や社会保険制度への影響を踏まえ、「大きな政府」と「小さな政府」という二つの対立軸を基に、今後の日本において社会保障の充実を優先すべきか、国民の負担軽減を優先すべきかについて、増税の影響に着目させながら、多面的・多角的に考察させる。見解の違う人と意見交流をさせ、税負担が大きくなることでの生活への影響や、反対に子育てや就労支援、老後の支援を必要とする人の主張などから、課題に対しての自らの考えをより深めさせる。

### 4 指導計画

時	主な学習活動	評価の観点
1	私たちの生活と財政 ・私たちが納める税金の種類や仕組みについて、理解する。 ・公正の観点から税金の負担について考察する。	● 財政及び租税の意義「税金の仕組みについて理解している。（知技） ● 税金の公平な負担について、政府や納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断している。（思判表）
2	財政の役割と課題 ・身近な社会資本や公共サービスについて調べ、政府が果たしている経済的な役割と課題を理解する。	● 具体的な事例を通して社会資本や公共サービスを調べ、政府の経済的な役割を理解している。（知技）
3	社会保障の仕組み ・社会保障制度の仕組みについて理解する。 ・社会保障制度の課題について、持続可能性の観点から考察する。	● 社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましについて理解している。（知技） ● これからの社会保障制度について、持続可能性の観点から考察し、自らの言葉で表現している。（思判表）
4	少子高齢化と財政① ・少子高齢化の財政への影響について理解する。 ・社会保険制度の抱える課題について、制度の仕組みの面から考察する。	● 少子高齢化が進むことによる財政への影響について理解している。（知技） ● 社会保険制度が抱える課題について、制度の仕組みの面から考察し、表現している。（思判表）
5 （本時）	少子高齢化と財政② ・少子高齢社会における今後の社会保障制度のあり方について、社会保障の拡充か国民の負担軽減かの視点から考察する。	● 少子高齢社会が進む日本において、社会保障制度の充実と財政の健全化の両立が難しい理由を、増税の影響に着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。（思判表）

## 5 本時の流れ

本時の目標	少子高齢化と財政② ○少子高齢社会における今後の社会保障制度のあり方について、社会保障の拡充か国民の負担軽減かの視点から考察する。
-------	--

段階	学習活動・学習内容 ・予想される生徒の反応	形態	○指導上の留意点 ●教師の支援	評価の観点 評価の方法
導入 8分	1 前時の確認 前時の学習事項を復習する。	一斉	○現代の日本社会では少子高齢化が進み、今後の社会保障制度が維持できるかどうかの課題があることを確認させる。 ○第2時に学習した、「大きな政府」と「小さな政府」という概念の違いについても再確認させる。	
	2 本時の学習課題を確認	一斉	○学習課題をノートに記入させる。	
<b>課題：少子高齢社会において、今後の日本では社会保障の拡充を優先すべきか、国民の負担軽減を優先すべきか。</b>				
展開 32分	3 立場の選択と考察①（8分） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           これからの日本の社会保障のあり方について、A～Dの意見から、自分の考えに最も近いものを一つ選び、理由とともに入力しましょう。         </div>	個別	○人口推計，社会保障給付費の推移，財源の内訳，日本と外国の税金比較などさまざまな資料から読み取れることを基に，立場を1つ選択させる。 ○自分の選択した立場と，その立場を選んだ理由を iPad で Google フォームに入力させる。 ●机間指導をしながら，資料の読み取りができていない生徒が多ければ，適宜見方のアドバイスを行う。	
	4 立場の選択と考察②（8分） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           自分と同じ考えの人同士で集まり，理由を述べ合い，考えを深めましょう。         </div>	グループ	○自分と同じ考えを選んだ人同士で，どうしてその立場を選んだのか，理由を発表し合い，考えを深めさせる。 ○どの資料のどの部分を手掛かりにしたか，根拠を明確にさせる。 ○この後，立場の違う人同士で意見交換をすることを伝え，そこでしっかりと理由を述べられるよう，準備させる。	
	5 意見交換（10分） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           自分と異なる立場の意見を聞き，さらに考えを深めましょう。自らの考えを変える場合にはその理由を述べましょう。また反論等がある場合にはその内容を質問し，議論しましょう。         </div>	グループ	○3～4人のグループを編成し，立場の違う人の意見を聞きながら，自分の考えを深めさせる。 ●グループ内で司会・計時係を決め，円滑に議論が進むようにさせる。 ○意見を聞きながら，自らの考えが変わった場合には，変わった理由を明確にさせる。 ○相手の意見を聞いて，疑問点や反論がある場合には，グループ内で協議をさせる。	・少子高齢社会における社会保障制度の充実と経済成長の両立が難しい理由を，増税の影響に着目し，多面的・多角的に考察し，表現している。【思判表】 (評価方法：フォームにおける個人の記述)

	<p>6 全体共有と補足（6分）</p> <p>学級全体で各立場を選んだ割合とグループ内で出された意見を確認しましょう。</p>	一斉	<p>○フォームで集約した内容を確認させる。</p> <p>○各グループ内で出た意見や議論してみたの感想を発表させ、全体で共有する。</p> <p>●この課題に正解はないことを伝え、今後の日本社会が「大きな政府」・「小さな政府」のどちらの方向に進んでいくのか、世の中の動きに注目してほしいということをお話してまとめる。</p>	
<p>終結 10分</p>	<p>7 本時のまとめ（10分）</p> <p>税に関する学習を通して、感じたことや考えたことを書きましょう。</p>	個別	<p>○これまでの租税の学習を振り返り、感想や意見を文章で記述させる。</p> <p>○数名の生徒を指名して発表させる。</p>	

## 6 授業を終えて

### (1) 生徒の感想から

- ◇一番初めに思ったのが、これからの世代は損だなということ。人口が減り、一人当たりの負担が増えるし、税制度や国債とかのゴタゴタした政治の話にもついていかなければいけないから。今後さらに進むであろう高齢化にも注意しながら議論しなければならないし、正直な感想を言えば面倒。「未来の世代」を考えながら政治をしていかなければ今の私たちの二の舞だと思った。
- ◇税金のことを学んで、最初は税金をどんどん増やしてもよいと思っていたけれど、増やしたら増やしたで国民の負担が増えて生活に困る人がいるのを知って、もっと多くの人の意見を通してなるべく納得してもらえるような結論を出すべきだと思った。
- ◇今までは増税のニュースを見ると、なんで増税なんてするのだろうと思っていたけれど、この公民の授業で税の学習をして、税はなければいけないもので、国民を支えているものだということがよく分かった。
- ◇税は自分たちから集められているが、その税の使われ方などを知るうちに、税金の大切さや重大さについてよく理解することができた。社会保障を維持するのはとても大変だと思うが、維持しなければ困る人が出てくるのも事実。今後のことは難しいなと思った。
- ◇大人たちは「税金～～」とかいろいろ言っているけれど、その税金はいろんなサービスに使っているから、税金は大事なのだと思った。税金のおかげで、いろんなことができているのはすごいと思う。
- ◇「税」の存在自体が、とても難しいものなのだと感じました。夏休みの課題作文にも書きましたが、もしもこの国から税が無くなったら、今までの「当たり前」が「非常」に変わってしまいます。しかしそれは私たち若い世代にとっての「当たり前」だけでなく年金や医療保険等にも当てはまります。日本は自分で当初思い描いていたよりもはるかに、密接に税とかわかっていました。税金がなければ、国は確実に成り立ちません。税金は決してなくしてはいけないものだと強く感じました。
- ◇勉強をするまで、税は高くして嫌なものというイメージだったけれど、実際作文を書く中で調べたり授業を受けてみたりして、私たちが普段払っている消費税などの税は学校の整備や道路の修理など私たちの周りの多くの場面で使われていると知って、これまで「消費税を減らしてほしい」と思っていたけれど、このままの保障・サービスが続く、あるいはもっとよくなるなら税金を払うことは大切で、自分たちのためにもなると思った。

◇税の授業を受けて税の仕組みが前よりわかりました。国民の税について、もっと他に使い道があるのではないかなと思いました。高い所得税を払っているのに必要性のないことに使われるのは困ります。何がしたいのかと思いました。国民全体のために使ってほしいです。

◇自分の親も多くの税を納めていることに気付いたので、今までとは別の観点で生活を行うようになった。税の知識は将来生きていく中で、必ず必要になると思うから、だまされたりしないように、今後も税について気になったことについては調べていきたいと思った。

◇大人になっていけば、今以上に税金を支払う場面が増えるので、今回習ったことを忘れずに過ごして行きたいと思う。「増税」等の問題をうのみにするのではなく、その場合のメリット・デメリットをしっかりと考えられるようにしたい。今の自分も納税者の一人であるという自覚を持って、これからも生きていきたい。



## (2) 授業の事後検討会より

### ○成果

- ・主体的に取り組む姿が見られ、指導の積み重ねの成果を感じられた。
- ・生徒が議題に対して、税の知識を使って意見を出し合うことができていた。
- ・ジグソー法での意見交流をしたことで、多くの考え方に触れる機会となっており、実際友達のことを聞いて、自らの考えが変わった生徒もいたようであった。
- ・Google ツールを活用した思考の交流が良かった。
- ・違う立場の人との意見交換で熱量をもって話し合っている生徒の姿が多く見られた。互いの話を聞き終わった後に「国民の声」として具体的なエピソードを投じたことでさらに話合いの質が深まったと思われる。
- ・各自の考えを出し合い、聞き合いすることで「深い学び」の入り口に立てたと感じる。
- ・知識がないと立場を決められない選択を迫ることで、分からないことを調べたり、既習事項を確認したりする姿が見られ、「主体的な学び」への足がかりになり得ると感じた。
- ・同意見同士での意見交流の場も設定したことで自分の意見に自信が持った生徒も多い。
- ・答えのない問いに対して考える姿勢や力を養うのに良い課題だと感じた。
- ・「税金減らしたら経済活動が活発になる」という見方の生徒がもう少しいるかと思ったが、やはり自分で納税していないと実感に乏しいところがあった。
- ・世の中の仕組みについて、何が正しいか自分の頭で考えた経験は、ずっと自分の中に残っていくのではないかと。新学習指導要領が求めている力はこういったことなのかもしれない。
- ・夏休み中の税の作文づくりの段階で調べた知識が生かされていた。そもそも「税金は取られる」という発想から「税金は必要だ」と考えを変えた生徒が多くいたので、本授業での意見づくりに十分生かされていたと思う。
- ・この授業の主体は生徒だった。授業者がコーディネーターとして機能し、生徒たちは安心して対話できたと思う。学級経営もあいまって、生徒たちが素直に伸びていく素地ができあがっていると感じた。

- ・生徒たちは医療や高齢者等様々な視点から考えを述べていた。生徒それぞれの生活経験や家庭環境によって考え方が変わってくるのが面白かった。
- ・今回の授業のように、学力差に関係なく多くの生徒が様々な意見を言い合うことができる課題は協同学習に適している。

## ●課題

- ・教科書の内容により仕方ないことかもしれないが、Google フォームの選択肢に国の名前を入れずにどの国がどのシステムを採用しているそうか予想させるのも面白い。さらにその理由を探ることでシステムへの理解も深まると感じる。選択式のミニテストを実施して、国のもつ雰囲気と社会保障のスタイルについて連携させてみるといった課題も興味深い。
- ・途中で意見を変えた人の意見を聞く場面があってもよかったと感じる。
- ・社会保障に関して、道路の通行料等、公共事業の視点も加えてあげるとさらに議論が深まる。
- ・本日の過程の中で、「6 全体共有と補足」はあの段階でよかったのか。当初の考えから変容があったか自分で確認できると良かったと感じた。
- ・50分授業1コマで実施したため仕方がないことだが、短い時間での意見交換は難しいと感じた。
- ・誰のどのような意見がきっかけで自分の考えが変容したかなどを共有するのも、面白いのかなあと思った。
- ・課題の中のA～Dの選択肢を選択する判断基準が難しいと感じた。でも、調べていた生徒も多かったのだから、生徒たちはしっかり取り組んでいる様子が見られた。
- ・世界の国の幸福度ランキングや、GDPランキングと社会保障が比例しているのかなど、突き詰めようとするといろいろ面白い材料があるかもしれない。
- ・課題の中のA～Dの選択肢を判断する際に、前提条件があると判断しやすかった。国の情勢や社会状況などの要素に左右されると思うので、いくつかのケースで考えさせることも面白いと思った。
- ・話し合いや議論では、声の大きな生徒の意見が通りやすい。そういった場面でタブレット端末やGoogleのツールを活用し、なかなか声を発して意見を言えない生徒たちの考えを入力させてみることで、様々な意見が集まると感じる。



## 7 おわりに

今回の租税に関する学習を通して、多くの生徒たちの中で「税」というものに対する意識が変わったと感じる。これまであまり意識してこなかった租税の使い道や役割について考えるだけでなく、自分たちが大人になってからの税制度や社会保障制度の在り方などについても目を向けさせ、生徒同士で深い話し合いをさせることができたと感じる。私自身も中学生に対する租税教育のあり方についてじっくりと考えるきっかけとなった。このような授業実践の機会を提供いただいたことに感謝したい。